

お名前 杉本 洋子

ご住所 鈴鹿市

発生時にいた場所 四日市第七国民学校校庭（現在西橋北小学校）

当時の年齢 10 歳

昭和 19 年 12 月 7 日国民学校 4 年生でした。午後の授業は工作の時間でした。グライダーを作っていました。竹ひごで主翼、尾翼を丸めて型を作り、紙を貼り中心の軸に取り付け、プロペラを付けて尾翼下まで生ゴム紐をつけて出来上がり、机の上へ置いて校庭へ出た途端、同級生が教室から駆けだしてきました。「地震〜」。おさまって教室へ戻ると机の上のグライダーは後ろの壁がくずれ落ちて壊れていました。父が学校まで迎えに来てくれたので歩いて家へ、途中お店のウインドーのガラスが割れていました。

私の家は萬古屋（製陶業）でした。窯の煙突がへし折れていました。私の家から南東方向に四日市港が位置し石原産業の日本一高い煙突と板硝子の 3 本の煙突がよく見えました。その石原産業の煙突も折れていました。

余震もあったので外へ出やすい部屋で就寝し、床の上に新聞紙を広げ履物を並べていた事が思い出されます。その翌年 20 年 6 月 17〜18 日には四日市大空襲にあい、家は全焼しました。その後、疎開、終戦、戦後の困難等乗り越え今に至ってられる事は先代への感謝の毎日です。